

令和元年6月3日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11602

研究課題名(和文) ANSHINサポートプログラムによる未破裂脳動脈瘤患者の不安払拭とQOL改善検証

研究課題名(英文) Development of the ANSHIN support program for patients with unruptured intracranial aneurysms in a wait and see approach.

研究代表者

大石 英則(OISHI, Hidenori)

順天堂大学・医学部・教授

研究者番号：60255685

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、双方向コミュニケーションを軸とした「ANSHINサポートプログラム」が未破裂脳動脈瘤(UIA)患者のQOL改善に有効かどうかを明らかにすることを目的とした。UIA患者20名を対象にQOLの経時的変化とその要因を質的・量的に調査した。これらの結果は対照群とする。また、これらの調査結果に基づき「ANSHINサポートプログラム」を考案した。「ANSHINサポートプログラム」の内容は、UIAの基礎知識、確認テスト、頭痛のトリアージ、日常生活に関するシリアスゲームとし、moodleを用いて実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

UIA患者のQOLに関する先行研究では、治療評価の観点から行われており、患者の心理社会的側面の詳細な状況に言及したものはない。本研究は、患者の視座に立ったQOL低下の詳細を明らかにする先行事例となる。また、外来頻度の少ないUIA患者に情報通信技術を用いることで、数か月に一度の点の関わりから線の関わりが可能となる。また本疾患患者は壮年期に多いため、困った時にすぐに受診できないという難点を解消でき、本研究成果は他疾患患者や医療の在り方に多大なメリットが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop o the ANSHIN support program for patients with unruptured intracranial aneurysms in a wait and see approach. We examined qualitatively and quantitatively the change of QOL and its factor in 20 UIA patients. These results are considered as a control group. In addition, based on the results of these surveys, the "ANSHIN Support Program" contents of "basic knowledge of UIA, confirmation test, triage of headache, serious game about daily life. The "ANSHIN Support Program" were implemented using moodle.

研究分野：脳神経外科

キーワード：未破裂脳動脈瘤 QOL 不安 ANSHINサポートプログラム eラーニング

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

脳ドックや頭部 MRA/3D-CTA 等の低侵襲画像診断検査の普及により、未破裂脳動脈瘤（UIA）が発見される患者が激増している。動脈瘤がいつ破裂するかわからない不安から、UIA 保有患者は頻回に医療機関を受診し、短期間に低侵襲画像検査を繰り返す状況に陥る。このように、UIA 発見は『止まない不安』を患者に与えて生活の質（QOL）を低下させるとともに、外来受診数・医療費の増加に繋がる。特に、UIA は働き盛りの年代である 30～60 歳代に好発する傾向にあり、社会へ与える損失が大きい。

そこで本研究では、『不安払拭を主眼とした UIA 患者の総合的救済』を目的として、双方向コミュニケーションとチーム医療を軸とした「ANSHIN サポートプログラム」を開発し、UIA 患者の適切な医療機関受診、低侵襲画像検査のピンポイント受検、そして患者 QOL を改善に導くための実証試験を実施する。

2．研究の目的

本研究は、以下の 4 部構成により、双方向（患者⇄医療者）コミュニケーションとチーム医療を軸とした「ANSHIN サポートプログラム」が UIA 保有患者の適切な医療機関受診、適切な低侵襲画像検査の受検、そして彼らの QOL 改善に有効かどうかを明らかにするものである。

目標 1. UIA 保有患者の QOL の経時的変化と変化の要因を質的・量的に調査し、患者の生活実態を調査する。

目標 2. QOL 向上のための有効な要素と方法を考案するために、文献や視察から QOL に関する介入プログラム、遠隔医療・遠隔看護につながるものを抽出する。

目標 3. 目標 1. 2. により得られたデータを統合し、UIA 保有患者の特徴を生かした「ANSHIN サポートプログラム」を開発する。

目標 4. UIA 保有患者にプログラムを適用し、介入群と通常診療群で比較し、サポートプログラムの有効性を検証する。

3．研究の方法

本研究計画は、保存的加療を選択した UIA 患者の特徴を踏まえた IPW と患者参加型の双方向コミュニケーションを軸とした「ANSHIN サポートプログラム」を開発・提供するものである。

平成 27 年度は保存的加療を選択した UIA 患者の QOL の経時的変化とその変動要因やニーズ等を量的（アンケート調査）・質的（面接調査）に探索し、生活実態を明らかにする。加えて、文献等を元に QOL 向上に有効な要素と方法を抽出する。

平成 28 年度以降は、これらの結果を統合することで、保存的加療を選択した UIA 患者の特徴を生かした QOL の 8 つの概念の強化ポイント・時期を踏まえた ANSHIN サポートプログラムを構築する。その後、患者にサポートプログラムを適用し、介入群と通常診療群で比較し、QOL が向上したかどうかを検証する。

4．研究成果

首都圏の A 大学病院を受診し、UIA 発見されてから 1 年以内の患者を対象とし、質的・量的調査を実施した。対象者は 20 名であり、男性 3 名、女性 17 名、平均年齢 63.1 (±9.19) 歳だった。分析の結果、46 サブカテゴリー、5 カテゴリーが抽出された。UIA 患者は医療者に対して、外来間の自宅での過ごし方が不安など<自宅での生活に関する支援>、不安な気持ちを聞いてほしい、大丈夫な頭痛かどうかを聞きたいなど<相談窓口がほしい>、いい例を知りたい等<他者の体験を知りたい>、破裂のリスクや自分の状況といった基本的なことを知りたいなど<UIA の正しい情報がほしい>、脳ドックを受けるかどうかを決めかねるなど<脳ドックの

意思決定支援>という5カテゴリーが抽出された。これらの結果より、UIA患者が求めるサポートニーズは、生活に関する支援、相談窓口、基礎知識に関する患者教育、他者の体験に関する情報提供、脳ドックの意思決定支援であることが示唆された。

この結果に基づき、「ANSHIN サポートプログラム」の目標、方法、内容について専門家会議にて内容妥当性を検討した。先行研究から得られたサポートニーズのうちについては、UIA発見前に実施すべき内容であり、本研究の対象とは異なることから除外した。～のサポートニーズを反映した本プログラムの目標は、1)UIAに関する基礎知識を学習できる、2)UIAと上手くつきあうためのスキルを身につける、3)医療者と繋がることで安心感を得られるとした。内容は、知識編として「UIAの基礎知識」を提供し、その後「確認テスト」を実施できるようにした。実践編として「危険な頭痛を見分けてみよう」では対象者自身が頭痛のトリアージを行える内容とした。「日常生活編」ではシリアスゲームができるようにした。これらの内容は、eラーニングシステムであるmoodleを用いて実施することで、外来頻度が少ないUIA患者が医療者とつながることで安心感を得られることを意図した。次に、開発した「ANSHIN サポートプログラム」を自然経過観察を選択したUIA患者に実施し、SF-36、HADS (Hospital Anxiety and Depression Scale)、UIS (療養の場を問わず使用できる病気の不確かさ尺度)を経時的に調査し、有効性を評価した。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計2件)

益田美津美、大石英則、山本宗孝、杉山文乃、野中宣秀、未破裂脳動脈瘤患者が求めるサポートニーズ、第34回日本脳神経血管内治療学会学術総会、2018.

益田美津美、大石英則、杉山文乃、山本宗孝、野中宣秀、未破裂脳動脈瘤患者へのAOL改善のためのANSHINサポートプログラムの開発、第34回日本脳神経血管内治療学会学術総会、2018.

6. 研究組織

〔研究分担者〕

研究分担者氏名：益田 美津美

ローマ字氏名：MASUDA, Mitsumi

所属研究機関名：名古屋市立大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号：60384153

研究分担者氏名：山本 宗孝

ローマ字氏名：YAMAMOTO, Munetaka

所属研究機関名：順天堂大学

部局名：医学部

職名：准教授

研究者番号：50338414

研究分担者氏名：杉山 文乃

ローマ字氏名：SUGIYAMA, Fumino

所属研究機関名：国立看護大学校

部局名：看護学部

職名：講師

研究者番号：10611238

研究分担者氏名：野中 宣秀

ローマ字氏名：NONAKA, Sensyu

所属研究機関名：順天堂大学

部局名：医学部

職名：助教

研究者番号：80407303

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。